

# とわ 永久の眠り 今

## 狭山の古墳



平成16年3月13日(土)~6月13日(日)

### 【講演会】「埼玉の古墳」

講師 若松良一氏 埼玉県立さきたま資料館主任学芸員  
日時 平成16年5月9日(日) 午後1時30分から  
場所 狭山市立博物館 研修・講義室  
人数 50名

4月23日(金)午前9時から電話にて申し込んでください

主催：**狭山市立博物館**

〒350-1324 埼玉県狭山市稲荷山1-23-1 狭山稲荷山公園内  
TEL 04(2955)3804 FAX 04(2955)3811  
<http://www.city.sayama.saitama.jp/museum.htm>

後援：埼玉県教育委員会

### ■開館時間

午前9時から午後5時

### ■休館日

3月15日,22日,26日  
4月12日,19日,23日,26日,30日  
5月6日,10日,17日,24日,28日,31日  
6月7日

### ■入館料

一般/150円(100円)  
高校生・大学生/100円(60円)  
小学生・中学生/50円(30円)  
※( )内は20名以上の団体  
※土曜日は小・中学生は免除(無料)です

### ■交通

西武池袋線「稲荷山公園駅」から徒歩約3分  
西武新宿線「狭山市駅」からバス  
稲荷山公園行き終点徒歩約3分  
圏央道狭山日高インターより15分

## 開催にあたって

古墳は遺跡のなかで発掘調査をしなくても一目でわかる遺構です。したがって誰もが古墳を見て古代のことについて思いをはせることができます。狭山では昭和10年頃に石室から直刀が発見されて、古墳の存在は噂されていましたが、盛り土がある「目に見える形の古墳」は存在しませんでした。

古墳とは、盛り土があり、それを堀で囲んでいる形が一般的です。その形は前方後円・円・方・前方後方などをしており、大きいものは400メートルから小さいものは十数メートルまでの大きさがあります。小さな古墳では堀の幅が狭くすぐに埋まってしまうので堀の存在は目立たずに盛り土だけが見えているものもあります。

市内では昭和52年にハイパークで米軍住宅の解体撤去工事中に河原石が多量に発見され、地下に埋葬施設があることが判りました。昭和57年には分布調査を実施して3カ所の古墳群を確定し、上広瀬古墳群・笹井古墳群・稲荷山公園古墳群と命名しました。

さらに平成元年に市営住宅の建て替えに伴い、上広瀬古墳群を発掘調査したところ5基の古墳と、副葬品が発見されました。埋葬施設はいずれも地下に築かれていました。副葬品は盛り土がある古墳と比べても遜色がありません。このような低墳丘で埋葬施設が地下にある古墳は狭山市の古墳の大きな特徴です。

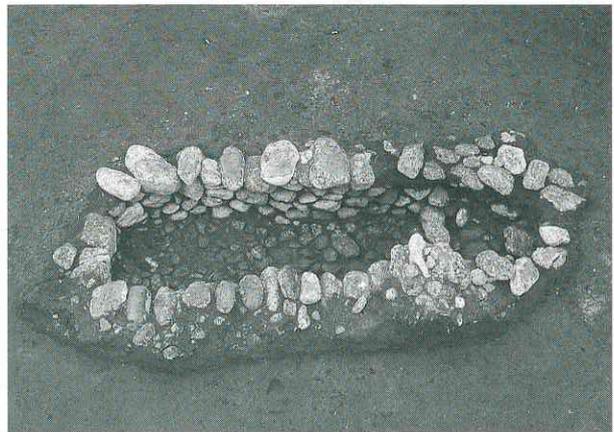
さあ、今回の展示でこうした調査の成果を存分にご覧いただき、狭山の古代へ思いをはせてください。

最後になりましたが、資料を提供してくださった関係各位に感謝を申し上げます。

平成16年3月 狭山市立博物館



上広瀬古墳群全景



上広瀬古墳群第9号墳



上広瀬古墳群第8号墳 土器の出土状態



**狭山市立博物館**

〒350-1324 埼玉県狭山市稲荷山1-23-1  
 狭山稲荷山公園(ハイパーク)内  
 TEL 04(2955)3804  
 FAX 04(2955)3811

# とわ 永久の眠り 今

狭山の古墳



平成16年3月13日(土)~6月13日(日)

後援: 埼玉県教育委員会



狭山市立博物館

# 開催にあたって

古墳は遺跡のなかで発掘調査をしなくても一目でわかる遺構です。したがって誰もが古墳を見て古代のことについて思いをはせることができます。狭山では昭和10年頃に石室から直刀が発見されて、古墳の存在は噂されていましたが、盛り土がある「目に見える形の古墳」は存在しませんでした。

古墳とは、盛り土があり、それを堀で囲んでいる形が一般的です。その形は前方後円・円・方・前方後方などをしており、大きいものは400メートルから小さいものは十数メートルまでの大きさがあります。小さな古墳では堀の幅が狭くすぐに埋まってしまうので堀の存在は目立たずに盛り土だけが見えているものもあります。

市内では昭和52年にハイパークで米軍住宅の解体撤去工事中に河原石が多量に発見され、地下に埋葬施設があることが判りました。昭和57年には分布調査を実施して3カ所の古墳群を確定し、上広瀬古墳群・笹井古墳群・稲荷山公園古墳群と命名しました。

さらに平成元年に市営住宅の建て替えに伴い、上広瀬古墳群を発掘調査したところ5基の古墳と、副葬品が発見されました。埋葬施設はいずれも地下に築かれていました。副葬品は盛り土がある古墳と比べても遜色がありません。この様な低墳丘で埋葬施設が地下にある古墳は狭山市の古墳の大きな特徴です。

今回の展示でこうした調査の成果を存分にご覧いただき、狭山の古代へ思いをはせてください。

最後になりましたが、資料を提供して下さった関係各位に感謝を申し上げます。

平成16年3月 狭山市立博物館

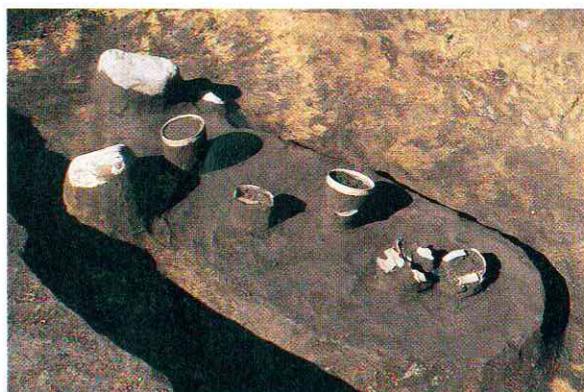
## ■上広瀬古墳群の調査

上広瀬古墳群は、昭和10年ころに石室から直刀が出土しておりその頃から古墳の存在が確認されていました。昭和42年に都市計画道路工業団地日高線の拡張工事により石室が壊され、直刀と金環・刀子が出土しています。昭和56年に狭山市内の詳細分布調査を実施したおりに4基（工事にて消滅したものを含む）を確認しました。また、古墳群に隣接する今宿遺跡にも昭和46年の発掘調査で古墳の周堀を検出しています。

古墳群の所在する地形は、入間川左岸台地上の縁辺で三角形に沖積地へ張り出しています。南側沖積地との比高差は10mほどです。

古墳群周辺は、調査を実施した場所を含めて住宅地や工場となっており、今回検出した古墳の特徴である低墳丘で埋葬施設が地下にあるような古墳は所在がわからずに工事で発見される例が多かったのです。分布調査で発見した現存する古墳も地面がわずかに盛り上がっているにすぎず、ここが古墳群であるという目で見なければわからないほどです。

発見した古墳は、6号墳から10号墳の5基です。1号墳から4号墳は分布調査で確定したもので、5号墳は、今宿遺跡の調査で検出したものです。



上広瀬古墳群第8号墳 土器の出土状態



上広瀬古墳群第8号墳 玉出土状態

## ■凡例

1. 本書は平成16年3月13日から6月13日までを会期とする企画展「永久の眠り 今-狭山の古墳-」のパフレットである。
2. 図版は展示資料の一部であり、図版掲載と展示の順序は必ずしも一致していない。また、展示資料は会期中に展示替えをおこなうため期間によっては展示されていない場合がある。
3. この企画展は、小淵良樹・石川友子・名雲教子が担当した。

## ■協力者

本企画展開催にあたり、次の方々や機関にご協力を賜りました。心よりお礼申し上げます。（五十音順、敬称略）

茨城県内原町教育委員会  
茨城県ひたちなか市教育委員会  
群馬県高崎市観音塚考古資料館  
群馬県かみつけの里博物館  
群馬県前橋市教育委員会  
群馬県太田市教育委員会  
群馬県東村教育委員会

埼玉県行田市教育委員会  
埼玉県立埋蔵文化財センター  
埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
埼玉県立さきたま資料館  
千葉県芝山町観光協会  
千葉県芝山町立古墳・はにわ博物館  
東京都調布市立郷土博物館

伊東トシ子  
島田 伊平  
袋 久浩  
山崎明日美

## ● 第6号墳

直径16mの円墳です。

本古墳は、調査区の南西端に位置します。すぐ西側は県道日高線が通っています。平面形態確認の結果、周堀と埋葬施設である石室の一部を検出しました。道路のため半分程度の調査となりました。

周堀は、円形に走行するので円墳と思われます。規模は、周堀を含めて直径約16m、堀の幅は1.35～1.6m、深さ30～60cmです。

石室は、道路の切り通しにより半分ほど壊されていて、げんもん玄門及びせんどうぶ羨道部は不明でした。検出した部分は玄室の奥壁と側壁の一部分です。石室内には褐色の土が埋没していました。

規模は、玄室長が現状で2.1m、奥壁幅0.9m。主軸方位はN-2°-Eです。構造は、幅1.6mの長方形にローム層を0.55m掘り込み、その壁体によって河原石を積み上げています。奥壁には大きな石を据え周囲に細かい石を充填しています。側壁は拳大の河原石を白色の粘土混じりの砂利で押さえています。棺床面は、砂利を敷き詰めていました。

遺物は、すべて石室内からの出土で棺床面に集中して発見されました。直刀・やじり鎌・とうす刀子、じかん耳環が出土しています。



＜第6号墳＞

## ● 第7号墳

本古墳は、調査区の北西に位置しています。西側に県道が通っていて半分以上を破壊されていました。

埋葬施設はすでに無く、周堀だけの調査となりました。

周堀は検出した限りでは円形を示しているのですが、円墳と思われます。規模は、周堀をふくめて18m、直径とするともう少し大きくなります。堀の幅は一定せず最大2.5m、最小で2m、深さは1.7～1.9mです。

出土遺物は、周堀からせきぞく石鎌、須恵器破片があります。いずれも古墳に伴うものではありません。



＜第7号墳＞

## ● 第8号墳

本古墳は横穴式石室を持ち、周堀外壁に埋葬施設のある直径22.6mの円墳です。

埋葬施設である石室は、長方形の形で検出しました。長さ2.74m、幅5.4m、深さ1.18mの穴を掘り、壁に沿って大型の河原石を積み上げて玄室としています。主軸方位はN-8°-Eです。玄室の規模は、長さ5.25m、幅2.64mです。積み上げた石材は30cm大の河原石で、小口を内側に向けて積み上げ、間に砂利や砂を詰めて押さえとしていました。調査時点では側壁が崩落しており、その河原石を除去したところ5～10cm大の砂混じりの石が敷かれていて棺床面となっていました。玄室の一方の壁に幅50cmの玄門が造られていました。玄門から周堀まで墓道が設置されていました。天井石は検出できませんでした。

周堀は、全周していましたが、幅は1.5～2.6m、深さ50～80cm。

周堀には隣接して土壇を7基検出しました。周堀調査中に発見したもので、周堀との新旧関係は不明です。周堀の立ち上がりの途中から掘りこまれており、周堀に沿って造られていますので、周堀を意識して掘られた様子が窺えます。そこで周堀構築後の設置と考えています。いずれも長方形をしており、規模は長さが2～3m、幅が1.5～1.8mです。

出土遺物は、切子玉・管玉・小玉、鉄製刀子・鎌、土師器坏、須恵器壺があります。須恵器壺は土壇6から出土、土師器坏は土壇2と周堀から出土しました。周堀から出土した土師器坏は羨道部入り口に近いところにまとまっており、完形品かそれに近い遺存状態でした。堀の底面から浮いた状態であり、出土状態が土器の姿勢がまちまちだったので堀の埋没とともに流れ込んだものと考えられます。玉と鉄製品は主体部から出土。土壇から出土した須恵器壺は、覆土のかなり上のほうからの出土で、同じく土壇から出土した土師器坏は底面からの出土です。鉄製品と玉は石室内から出土しました。

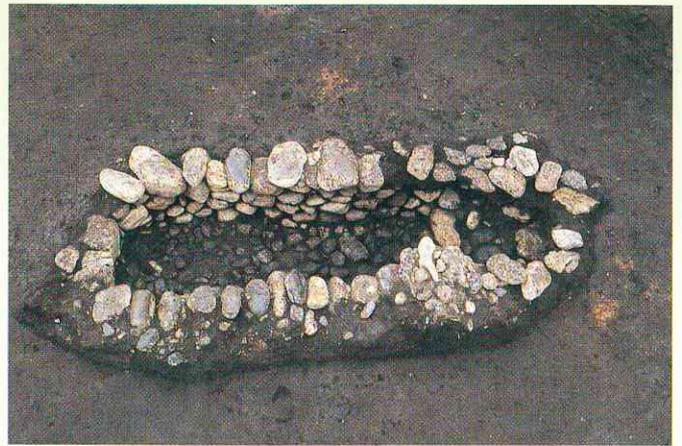


＜第8号墳＞

## ● 第9号墳

埋葬施設は、石室で河原石が2段まで遺存していました。周囲に石が積まれていて、南端は根石より上の部分を近世の溝に破壊されていました。石室内は、砂利混じりの黒色土と河原石で埋没していました。その河原石は、石室の構造体で石室内に崩落したもので、その隙間に黒色土が入り込んだものと思われます。天井を覆う材料は検出しませんでした。ロームを少し掘り下げて棺床面の石を敷いています。石積みはローム面の上に築かれています。石の小口を内部に向けて積み上げ、砂利混じりの黒色土を後込めとしていますが厚みがありません。使用している河原石の大きさは、長いもので50cmで、ほとんどが20~40cmのものでした。玄室内の長さは2.4m、幅0.65mです。主軸方位はN-16°-Wです。

出土遺物は、棺床面から鉄製品の刀子・<sup>とうす</sup> 鎌・<sup>やじり</sup> 簪と多数の玉がありました。玉は、北壁下に集中して出土しました。



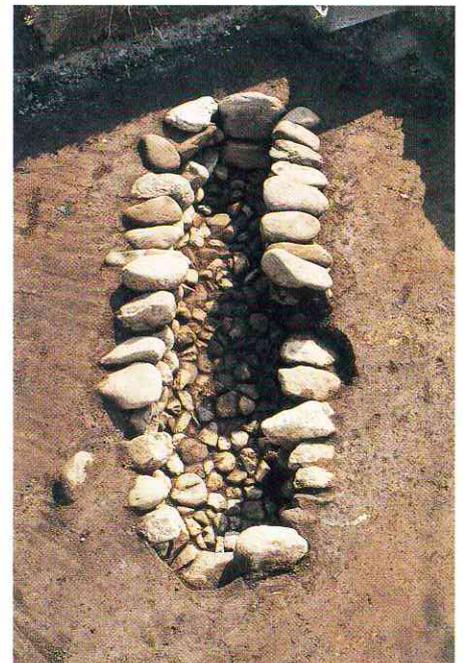
〈第9号墳〉

## ● 第10号墳

第9号墳と同様に周堀が無く石室だけの古墳です。

埋葬施設である石室は、幅1m、長さ2.4mの長方形の大きさで、深さ30cmほどロームへ掘り込んだ土壌の中に構築しています。側壁に沿った形で河原石を積み上げているだけの簡単な構造で後込めはありません。石積みは2から3段遺っています。ローム面よりも上の位置にまで石積みが認められることから、古墳築造当時の地面から穴が掘られていたと考えられます。東側の石積みは、持ち送り構造です。北端は、根石の上に大型の石があり状況からこれが奥壁と考えられます。南端は、根石のみの検出のため玄門であるのか、抜き取られたものかは判然としませんが、奥壁の石との対比から玄門と考えておきます。石室の構造は、袖無型石室です。羨道は検出しませんでした。棺床面は10cm大の石を敷き詰めていました。

規模は、棺床面での幅は45cm、3段目で30cm、長さは、棺床面で2.94mを測りました。主軸方位はN-8°-Eです。天井を覆う構造は検出せず、玄室内は黒褐色土で埋まっていました。



〈第10号墳〉

### — 展示目録 —

直 刀	上広瀬古墳群	狭山市	武人埴輪	稲荷山古墳	埼玉古墳群	行田市
直 刀	上広瀬古墳群	狭山市	武人埴輪	瓦塚古墳	埼玉古墳群	行田市
鏢	上広瀬古墳群	狭山市	巫女埴輪	稲荷山古墳	埼玉古墳群	行田市
刀 子	上広瀬古墳群	狭山市	巫女埴輪	代正寺遺跡	東松山市	
鉄 鎌	上広瀬古墳群	狭山市	鉄 鎌	海谷遺跡	所沢市	
切子玉	上広瀬古墳群	狭山市	勾 玉	海谷遺跡	所沢市	
管 玉	上広瀬古墳群	狭山市	切子玉	海谷遺跡	所沢市	
小 玉	上広瀬古墳群	狭山市	小 玉	海谷遺跡	所沢市	
須恵器壺	上広瀬古墳群	狭山市				
土師器坏	上広瀬古墳群	狭山市				